デーノタメ遺跡の重要性と魅力

1 1,200年間も継続していた縄文のムラ

縄文時代中期（約5,000年前）～後期（約3,800年前）まで、およそ1,200年にわたって縄文人がムラを営み、高度な文化がそれを支えていたことが明らかになっています。

2 関東最大級の環状集落

縄文時代中期の「環状集落」は長径で210mを超え「関東最大級」を誇ります。また、270mの長さで連なる後期の集落も、とても大規模であることが明らかになっています。

3 縄文のタイムカプセル

デーノタメ遺跡の低地のエリアでは、縄文人が食料としていたクルミやクリ、トチノキなどの種や実のほか、漆製品が数多く出土しました。当時の環境変化や食料事情などが、明らかになっています。

漆は日本の基層文化だ！

デーノタメ遺跡の縄文人はウルシ林を管理し、樹液を計画的に採取していたようです。出土する漆製品は、高い技術で作られていました。漆は英語でjapanと書くように、日本古来の文化なのです。

出土した漆塗り器

復元した漆塗土器

縄文のマメ栽培が明らかに！

出土した土器にはダイズとアズキの圧痕が確認されました。ダイズの圧痕は長さが1.2㎝と大きく、縄文人はすでにマメ類を栽培していたことがわかります。もしかしたら納豆を食べていたのかも。

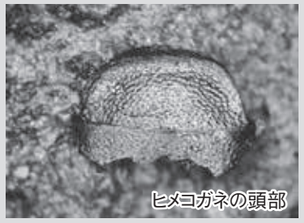
ダイズの圧痕土器

アズキの圧痕土器

ムシが語る縄文人の生業と環境！

低地の調査ではヒメコガネがとくに多く出土しました。このコガネムシは英名をsoybean beetleといい、ダイズの害虫なのです。当時、遺跡の周辺ではダイズの畑が広がっていたのでしょうか。

ヒメコガネの上翅


ヒメコガネの頭部

【特集2】

デーノタメ遺跡の保存に向けて

日本考古学協会から要望書が提出されました。

1月10日、一般社団法人日本考古学協会から「デーノタメ遺跡」を保存し、国指定史跡へ向けた計画の立案と実行などを主旨とする要望書が、市長と教育長宛てに提出されました。

これを受け、北本市では1月27日付けで、遺跡の保存に向けて慎重に検討していく旨などを同協会へ回答しました。

考古学協会からの要望内容

1）デーノタメ遺跡の史跡化に向けた計画を立案し、速やかに実行すること。

2）デーノタメ遺跡の北西側低湿地の遺構・遺物の分布状況を把握し、遺跡の範囲を拡張すること。

3）デーノタメ遺跡を住民共有財産として、地域づくりに係る活動等に活用する計画を策定し、実践すること。

市からの回答内容（要旨）

1）本遺跡を国指定史跡とするため、土地区画整理事業等と遺跡の共存に向けた方策を早期に定められるように努めます。

2）遺跡の北西部の泥炭層の広がりを明らかにする調査を計画的に継続します。

3）遺跡の重要性と魅力を広く発信し、本遺跡を住民の共有財産として地域づくりにいかせるよう努めます。

<一般社団法人 日本考古学協会とは>

大学や研究機関の研究者、国や自治体の文化財担当者など、約4,000人が加入する日本最大の考古学研究者の組織です。考古学の研究のほか、全国の文化財の保存と活用などについて、専門的な立場から指導、助言を行っています。

問 文化財保護課（☎594-5566）